

## 【化学熱力学－基本の考え方 15章】 第1版 第1刷 正誤表

頁	図番号, 位置など	誤	正
49	上から 15 行目	…, 1 種類の気体が生成するときには, 気体の圧力が大きく変化する可能性がある. その場合には…	…, 1 種類の気体が生成するときには, 物質量が変化する. その場合には…
68	図 8・2 左下	断熱膨張	断熱圧縮
85	図 10・1 右	昇華 (凝縮)	昇華 (凝華)
89	上から 5 行目	…大気圧で安定な相 I では, 低温の結晶形と高温での結晶形が異なり, それぞれは… [2 箇所]	…大気圧で安定な相 I では, 低温の結晶系と高温での結晶系が異なり, それぞれは… [2 箇所]
97	下から 1 行目	…の変化量は, (11・3)式と同様にして, …	…の変化量は, (11・4)式と同様にして, …
102	上から 9, 10 行目	…は臨界点 (critical point) を表している. さらに温度が高くなると, 二酸化炭素は常に気体であり, §2・2 で説明したボイルの法則に従うようになる (図 2・3).	…は臨界点 (critical point) を表している. [一文削除]
103	問題 2	…水の蒸気圧曲線よりも低圧側にある. …	…水の蒸気圧曲線よりも高圧側にある. …
106	上から 8, 9 行目	…と第二法則を組合わせた式 (ただし, 可逆過程という条件がつく) であって, 熱力学…	…と第二法則を組合わせた式 [一文削除] であって, 熱力学…
115	上から 9, 10 行目	…気相での分圧 $P$ はそれぞれの成分の分圧 $p$ の和になる. 純粋な液体での蒸気圧を $P^*$ とすると, それぞれの成分の分圧は, $P^*$ に気相のモル分率… [2 箇所]	…気相での分圧 $P$ はそれぞれの成分の蒸気圧 $p$ の和になる. 純粋な液体での蒸気圧を $P^*$ とすると, それぞれの成分の蒸気圧は, $P^*$ に気相のモル分率… [2 箇所]
115	下から 6, 7 行目	…モル分率を使って, 溶液の気相での分圧 (それぞれの成分の蒸気圧) を次のように仮定した.	…モル分率を使って, 溶液の気相でのそれぞれの成分の蒸気圧を次のように仮定した.
115	下から 3 行目	これをラウールの法則という. 分圧 $p_A$ は液相の…	これをラウールの法則という. 蒸気圧 $p_A$ は液相の…
116	上から 4 行目	…を混ぜたときに, 気相中のエタノールの分圧が液相での…	…を混ぜたときに, 気相中のエタノールの蒸気圧が液相での…
116	下から 12, 13 行目	…縦軸はエタノールの蒸気圧 (分圧) である. モル分率がゼロ…	…縦軸はエタノールの蒸気圧である. モル分率がゼロ…
117	上から 6 行目	…といい, この比例定数 $k_H$ のことをヘンリー係数という. 結局, …	…といい, この比例定数 $k_H$ のことをヘンリー定数という. 結局, …
117	図 13・3 左	全 圧/atm	圧 力/atm
127	表 14・1	$K_f/K \text{ mol}^{-1}$ $K_b/K \text{ mol}^{-1}$	$K_f/K \text{ mol}^{-1} \text{ kg}$ $K_b/K \text{ mol}^{-1} \text{ kg}$
145	12 章 問題 2	省略 (気体→液体→…	省略 (室温では気体→液体→…
145	14 章 問題 3	解答を以下に変更. $P = 0.02307 - P_A^* M m / 1000 = 0.02307 - 0.02307 \times 18(\text{H}_2\text{O}) \times (36/179.3) / 1000$ $= 0.02307 - 0.000083 \dots = 0.02299 \text{ atm.}$	
149	ページ中央	ヘンリー係数 117	ヘンリー定数 117